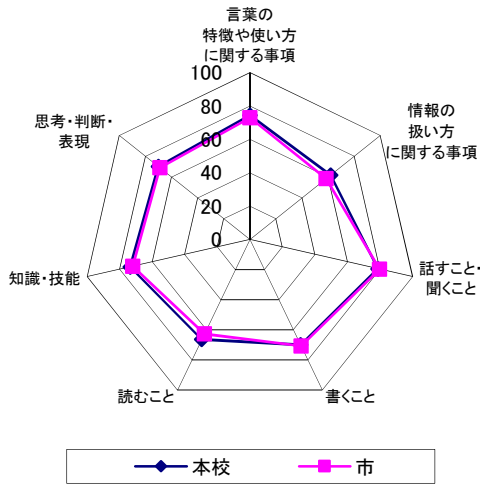


宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.4	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	61.8	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	78.7	79.8	75.9
	書くこと	70.0	70.7	71.7
	読むこと	66.4	62.8	62.5
観点別	知識・技能	73.5	72.0	74.4
	思考・判断・表現	70.1	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

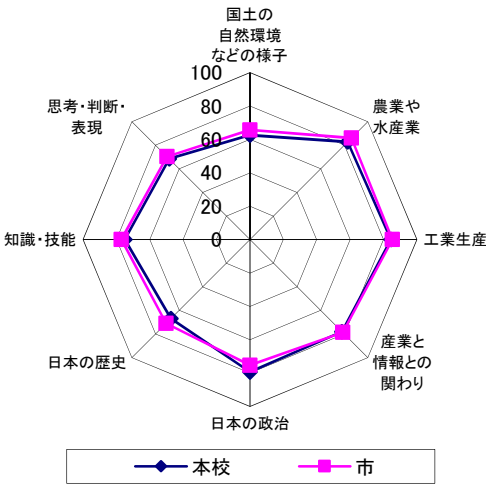
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○第6学年の配当漢字を読む問題では市の平均正答率と同等であったが、第5学年の配当漢字を書く問題では、すべての漢字で市の平均正答率を上回った。 ○三字熟語の構成では、6. 5%、尊敬語の理解と活用では5. 1%、謙譲語の理解と活用では7. 2%それぞれ市の平均正答率を上回った。 ●同じ読みの漢字の使い分けについての問題では、市の平均を6%下回った。	・年間3回のわくわく漢字チャレンジへの取組を継続する。 ・朝の学習の時間に、5年「同音異義語」の学習を振り返る時間を設けることで定着を目指す。
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報との関係について理解し文章を簡潔にまとめて書く問題では、市の平均を3. 3%上回っている。	・意見文や報告文など様々な文種で書く場面で、読み手に分かりやすい文章になるよう、情報を整理して構成メモを書かせる。 ・読む活動で筋道の通った論の展開のよさに着目させたりしていく。
話すこと・聞くこと	○話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、市の平均正答率を2. 1%上回っている。 ●計画的に話し合い、考えをまとめる司会者の工夫を捉える問題では2. 7%、互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い考えをまとめる問題では2. 6%市の平均を下回った。	・児童にとって必要感のある話し合いの場を他教科でも設定する中で、話し合いを通して何を達成しようとするのかということやどのように話し合うのかといった話し合いの方法に関する意識を明確にさせる取組を継続していく。
書くこと	○報告文を書く問題で、情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡潔にまとめて書く問題では、市の平均を3. 3%上回っている。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く問題や指定された長さの文章を書く問題、意見への反論を書く問題では、市の平均正答率とほぼ同等だった。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、市の平均を4. 6%下回った。	・これまで、序論・本論・結論の3段落や本論を更に分けた文章を書かせることが多く、型で書ける力は定着しつつある。 ・今後は、様々な条件に沿って書く力を伸ばすために、段落数や字数と段落の内容などの条件を与えながら書く経験を増やしていく。
読むこと	○物語の表現の効果を考える問題では、市の平均正答率を16. 9%上回った。 ○説明文の文章の論の進め方を捉える問題では、市の平均正答率を11. 3%上回った。 ●説明文で叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均正答率を2%下回った。	・説明文では、どの児童もキーワードを見付けて傍線を引けるようにしたい。そのために中学年での学びを振り返り要点まとめや要約文作りなどを自分でできるように支援していく。 ・宿題などで機会を設け、教科書にない文章を読んで質問に答えたり選択肢を選んだりする機会を設ける。その後、朝の学習で、どうしてそうなるのかを話し合ったり考えさせたりすることを積み重ねる。 ・読書活動を推進し、言葉を豊かにしていく。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.6	65.7	67.0
	農業や水産業	82.9	86.1	77.5
	工業生産	84.6	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	78.0	78.6	69.6
	日本の政治	79.3	75.2	65.8
	日本の歴史	66.9	71.1	69.1
観点別	知識・技能	75.0	77.0	72.8
	思考・判断・表現	68.4	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

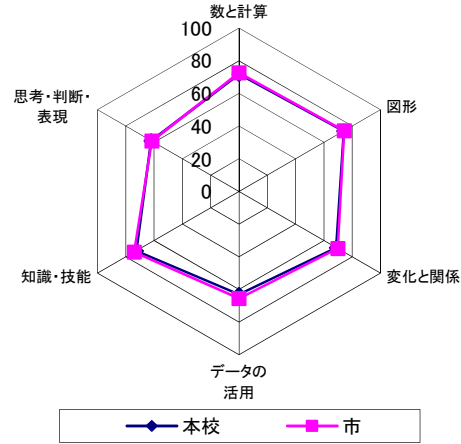
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○日本の領土の端について問う問題では、市の正答率を3.3%、自然災害から命を守る取組については4%上回った。 ●日本の周辺の海洋名を問う問題では、市の正答率をわずかに0.7%下回し、森林を守る間伐についての理解は13.4%下回った。	・授業中だけでなく自主学習等でも地図帳で国・県の位置や地形などを確認させる機会を多くもたせ、社会科をより身近な教科とする。 ・林業に関しては具体的にイメージしにくいので、できるだけたくさんの動画等を授業で紹介し、林業の重要性や「木」そのものがもつ素晴らしさも児童に伝えていく。
農業や水産業	○果物などの農産物の生産に関して、地図を正確に読み取り産地を答えることができ、市の正答率を1.2%上回った。 ・圃場整備と米作りの生産効率についての理解が浅く市の正答率を7%下回った。	・農作業にかかる時間を減らし生産性を向上させるために圃場整備が必要であることを考えさせるなど、授業においてたくさんのグラフや資料を提示しながら、分かることを読み取る練習をする。 ・普段の生活からスーパーマーケットのチラシ広告に目を通したり、日本地図を気軽に開いたりするなど社会科を身近な教科とする。
工業生産	○自然災害から命を守る施設について問う問題では、市の正答率を4%上回った。 ●工業製品の種類を分類する問題や電気自動車の環境に配慮された部分を問う問題では、市の正答率を3%下回った。	・日本の主要産業に目を向けさせ、授業の中で教科書や資料集を基に電気自動車など多くの品目に触れさせるようにする。 ・「なぜ電気自動車がつくられたのか」など児童の疑問を追究できる学習問題を設定し、疑問に対して調べる活動を通して、理解を深めさせていきたい。
産業と情報との関わり	○放送や新聞など情報産業の情報の伝え方を問う問題では、市の正答率を1.8%上回った。 ●情報の正しい受け取り方を問う問題では、市の正答率を3%下回った。	・多様な情報メディアの特性を理解しながら、情報ネットワーク等の言葉に対する理解を、更に定着させていく。 ・情報を正しく活用するためのルールやマナーを理解させていく。
日本の政治	○日本国憲法における天皇の地位を問う問題では、市の正答率を7.9%上回った。 ○国会の働きを問う問題では、市の平均を3.9%上回った。	・国会、内閣、裁判所の働きと国民を関連付けて考えたり、国民として政治への関わり方を考えられるように指導していく。
日本の歴史	○弥生時代の人々の暮らしについて答える問題では、市の正答率を7.3%上回った。 ●鎌倉時代から室町時代の人物や政策、文化に関する問題は、市の正答率を2%から12.3%下回った。	・それぞれの時代の重要な人物について、行った政策や、人物相互の関連を押さえる指導を行い、理解を深めさせていきたい。 ・それぞれの時代の文化については、その特徴を理解し、記述できるようにするため、自分の言葉でまとめる時間を確保する。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.8	72.6	71.6
	図形	74.1	74.4	72.0
	変化と関係	68.8	69.8	62.6
	データの活用	63.0	65.5	59.1
観点別	知識・技能	72.6	74.1	68.9
	思考・判断・表現	62.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

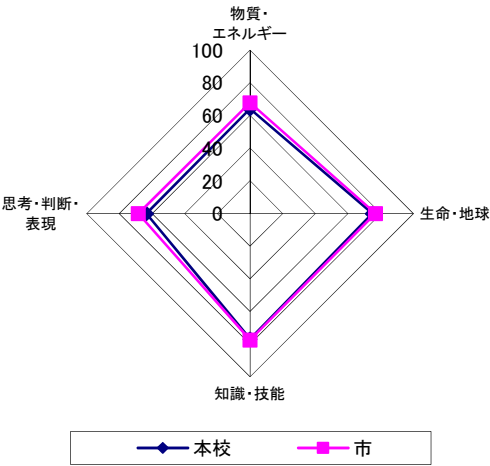
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、市の平均を15.5ポイント上回った。 ●分数の除法の文章問題にあった図を選ぶ問題では、市の平均を9.6ポイント下回った。	・基本となる事柄や、下学年の内容を確実に理解しながら、当該学年の学習内容を身に付けていけるよう、自主学習や朝の学習を活用して、反復練習させる。 ・文章問題を解くときに必要なポイントに下線を引くなどして、立式の手立てとなるようにし、問題解決に生かせる活動を積極的に取り入れる。
図形	○正八角形の作図方法から、円の中心のまわりにできる角の大きさと正八角形の1つの内角の大きさを求める問題では、市の平均を6.9ポイント上回った。 ●合同な三角形の作図の方法を理解している問題では、市の平均を5.5ポイント下回った。また、線対称な図形について、対称の軸が何本あるかを求める問題では、市の平均を6.0ポイント下回った。	・線対称や点対称の意味や性質について、具体物を使った実践の機会や作図などの活動を通して、理解を深められるようにする。 ・合同な三角形の作図の方法は3通りあるので、それぞれの方法で作図ができるように繰り返し練習させる。
変化と関係	○値に0がある分離量の平均を求める問題では、市の平均を1.9ポイント上回った。 ●50mを走る記録から、速さを求める問題では、市の平均を6.7ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさを求める問題では、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を図や式などを用いて考える力を身に付けさせるために、繰り返し問題を解く機会を多く取り入れる。
データの活用	○折れ線グラフを読み取る問題では、市の平均を3.9ポイント、棒グラフを読み取る問題では、市の平均を3.5ポイントそれぞれ上回った。 ●データの見方の最頻値について理解しているかの問題では、市の平均を16.2ポイント下回った。	・データ全体を表す指標として、「平均値」「中央値」「最頻値」などの代表値について繰り返し指導する。また、量的データの分布の様子を捉えることにも着目させ、ドットプロットに表したり、度数分布を表す表や柱状グラフについても理解が図れるように、練習問題に取り組みさせる。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.0	67.8	64.1
	生命・地球	74.9	76.7	78.3
観点別	知識・技能	76.8	77.4	78.3
	思考・判断・表現	63.4	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●「もののとけ方」の濃い塩水から塩を取り出す方法を説明する問題では、正答率が60. 2%で市の正答率を12ポイント下回った。 ●「もののとけ方」の液体と固体を分ける方法をろ過と呼び、正しい操作をすることができる問題では正答率が39. 8%で市の正答率を8. 2ポイント下回った。 ●「電流のはたらき」の方位磁針の針の様子から電磁石の両端の極を推測する問題では、正答率が36. 6%で市の正答率を5. 8ポイント下回った。	・5年生の内容が市の平均を下回っているものが多いため、キーワードを確認したり、過去問に取り組ませたりすることで知識の定着を図る。 ・塩を取り出す方法や、ろ過の正しい実験の仕方について児童に説明させたり、振り返らせたりする機会を増やすことや、繰り返し実験をすることで定着を図る。 ・電流の両端の極を推測する方法については、実験を繰り返し行うことや、条件を変えて実験することを通して理解させる。
生命・地球	○「動物のからだのつくりとはたらき」の食べ物が消化管を通る順序を理解しているかの問題では、正答率が91・9%で市の正答率を7. 5ポイント上回った。 ○「生物とかんきょう」では、問題すべての正答率が市の平均より上回った。 ●「天気の変化」の台風の動き方が分かり、雲画像の台風がどのような順で動いたかを推測する問題では、正答率が58. 5%で市の平均を13. 8ポイント下回った。	・台風の動き方については、日本全体の雨温図や天気の変り変わりを見せることで、これからどのように台風が動いていくのかを推測させる機会を増やし、台風の動き方を理解させる。

宇都宮市立清原中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、豊かに表現できる力の育成	授業の中の話合いで、ペアやグループ、全体などの形態を工夫するとともに、発達段階に応じた話し方・聞き方のスキルを身に付けさせる。	「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」の設問では、学校全体の肯定割合は市の肯定割合をやや下回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	- 学年内で宿題の量や家庭学習の仕方をそろえる。自主学習の内容や方法を示し、良い実践のものをクラスに紹介する。 - 保護者が自主学習ノートを確認する機会を設定する。	「宿題はきちんとやっている」の設問では、市の肯定割合とほぼ同程度であったが、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の設問では、全体的に市の肯定割合を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・低学年からペアやグループ、全体での話合いを充実させることで、学び合う授業の確立を図り、話合いに進んで参加したり、話し合うことで自分の考えを深めたり広めたりすることができる児童を育成していく。

・家庭学習については、学年で内容をよく検討し、めあてをもって取り組めるようにする。また、低学年から自主学習を推奨し、様々な内容を紹介していく。さらに、「家庭学習振り返り週間」を実施し、保護者にも励まし認めてもらえる機会を増やしていくことで、自主的に取り組む児童を増やしていきたい。